

公立大学法人前橋工科大学
令和元年度業務実績に関する
評価報告書

令和2年11月

前橋市公立大学法人評価委員会

目次

I	評価の考え方	1
	1 基本的な考え方	
	2 評価方法	
II	全体評価	2
III	項目別評価	4
	1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組	
	(1) 教育に関する目標を達成するための取組	
	(2) 研究に関する目標を達成するための取組	
	(3) 地域貢献に関する目標を達成するための取組	
	(4) 国際交流に関する目標を達成するための取組	
	(5) 教員の資質向上に関する目標を達成するための取組	
	2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組	
	3 財務内容の改善に関する目標を達成するための取組	
	4 自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための取組	
	5 その他業務運営に関する重要な目標を達成するための取組	
	用語解説	14
	委員名簿	15

I 評価の考え方

前橋市公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法第78条の2の規定に基づき、公立大学法人前橋工科大学の令和元年度の業務実績について、以下の考え方により評価を実施した。

1 基本的な考え方

- ・ 中期目標の達成に向けた、法人の中期計画及び年度計画の実施状況を確認する。
- ・ 法人の特筆すべき取組や成果を積極的に評価する。
- ・ 評価を通じて、法人の管理運営、大学の教育研究の質的向上を図る。
- ・ 法人の管理運営、大学の教育研究などの実績及びそれに対する評価は広く関係者に公表する。

2 評価方法

・ 評価の進め方

年度評価は、法人から提出された「令和元年度業務実績に関する報告書」を踏まえ、その自己点検及び自己評価の内容が適切かどうかという視点で「全体評価」及び「項目別評価」を行う。

・ 「全体評価」

令和元年度の法人の業務実績全体について総合的な評価を行う。

・ 「項目別評価」

中期目標における目標区分ごとに業務の実施状況を確認し、4段階の評価基準により評価を行うとともに、特筆すべき点や今後に期待する点についての講評を付す。

(目標区分)

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	
(1)教育に関する目標	年度計画 No. 1～No. 13
(2)研究に関する目標	年度計画 No. 14～No. 22
(3)地域貢献に関する目標	年度計画 No. 23～No. 30
(4)国際交流に関する目標	年度計画 No. 31～No. 33
(5)教員の資質向上に関する目標	年度計画 No. 34～No. 40
2 業務運営の改善及び効率化に関する目標	年度計画 No. 41～No. 46
3 財務内容の改善に関する目標	年度計画 No. 47～No. 53
4 自己点検・評価及び情報公開に関する目標	年度計画 No. 54～No. 58
5 その他業務運営に関する重要な目標	年度計画 No. 59～No. 84

(評価基準)

評点	定義
A	中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
B	中期計画の達成に向けて概ね順調な進捗状況にある。
C	中期計画の達成に向けてはやや遅れた進捗状況にある。
D	中期計画の達成に向けては進捗が著しく遅れており、 重大な改善事項がある。

【参考：法人による自己評価の評価基準】

評点	定義
A	年度計画を上回って実施している。
B	年度計画を計画どおりに実施している。
C	年度計画をやや遅れて実施している。
D	年度計画を実施していない。

II 全体評価

令和元年度は、公立大学法人として第2期中期目標期間の最初の事業年度であり、第1期中期目標期間における課題等を踏まえた上で、第2期中期目標の達成に向けて進捗していくために重要な1年であり、着実な取組を期待した。

令和元年度の業務の全体的な実施状況は、業務実績に関する報告書において、年度計画の全84項目のうちの95%の80項目が「A評価：年度計画を上回って実施している」、又は「B評価：年度計画を計画どおりに実施している」となっている。また、「C評価：年度計画をやや遅れて実施している」となっている項目も、学科再編の動きに合わせる必要のあるものや、新型コロナウイルス感染症の影響により予定通り取組めなかったが、代替策を講じているものであるため、評価委員会においても、概ねこの評価に準じ、全体的には6年間
の中期計画期間の1年目の取組として、着実に実行できていると評価する。

業務実績に関する報告書中の「特筆すべき成果」において、学生表彰制度の創設や既存グループウェアを使用した簡易電子決裁の導入によるペーパーレス化及び事務作業の効率化について記載されているが、これらは教育研究の質の向上や法人の管理運営の効率化に寄与するものであり、高く評価する。また、市民向け公開講座、こども科学教室、群馬県警とのサイバーパトロールコラボレイターの活動など、専門分野を活かした多様な地域貢献活動により、地域と

共に歩む大学としての使命を果たし、地域での認知度向上や、将来的には地元学生の入学の増加に繋がっていくと考える。このような取組と連動し、オープンキャンパスや高校教員向け説明会の参加者数等も増加しており、今後も地域に根ざした大学として一層の活躍を期待する。

さらに、財務内容の改善に関する目標を達成するための取組において、大学の自己評価としては全てB評価だったが、法人が独自に自主財源を確保する取組として新たにふるさと納税のメニューを創設したことは、年度計画を上回る取組として考えられることから、評価委員会としてはこれを評価し、A評価に上方修正することとした。

一方で、第1期中期目標期間において、最終的に目標を達成できなかった項目もあったことから、6年間で着実に目標達成に向けて実行していく体系となる年度計画の策定を求めたい。具体例としては、学部教育に関する取組では、中期目標は教育の質向上のための内部品質保証のPDCAサイクルの確立であるため、学部教育の各目標の年度計画と実績が、中期目標達成の工程として明示されることを求めたい。

また、これまでの評価報告書でも、業務実績の項目別自己評価において、その判断根拠を第三者に十分理解できるように示す必要があるという指摘をしたが、年度計画に対する実績の記述が具体的でなかったり、説明が不足していたりする項目や、年度計画に対応していない項目があり、いまだに評価の判断根拠が不十分な項目が散見された。適切な評価を行うため、計画と実績で定量化できる項目については、極力数値化を行い、判断根拠の明確化に引き続き努めて欲しい。

結びに、令和2年度は第2期中期目標期間の2年目にあたり、中期目標の達成に向けた着実な取組の基礎を作る必要がある。また、学科再編に向けては重要な1年になるため、検討を進め、計画的に取り組んで欲しい。なお、コロナ禍において今まで同様の運営が困難であり、入構制限や三密対策により学生の勉学意欲の低下や精神不安定、実験や研究の遅れ、広報活動及び就職支援活動の制限等が懸念される。こうしたことから、大学の運営方法に大きな変化が必要となってくると思うが、変化をプラスに変えて、WEB利用のほか必要に応じて効果的な対策や代替策を講じるなどして、更なる飛躍が図れることを期待して全体評価の総括とする。

Ⅲ 項目別評価

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組

(1) 教育に関する目標を達成するための取組

評価委員会 評価	<p>法人の自己評価の項目全体では、13項目のうち2項目がA評価、10項目がB評価とされた。評価委員会の評価も、全体的には概ね順調な進捗状況にあると評価できる。</p> <p>特に、学業成績優秀者表彰制度の創設と分野横断型シンポジウムの充実について高く評価することができる。</p> <p>しかし、自己評価でC評価とされた項目があり、学科再編の動きに合わせ進捗が遅れたものであるが、着実な達成に向け、計画の見通しの明示が望まれる。</p>	B (概ね順調)
-------------	---	--------------------

評価結果

評価者	全体 項目 数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
法人	13	2	15.4%	10	76.9%	1	7.7%	0	0%
評価委員会	13	2	15.4%	10	76.9%	1	7.7%	0	0%

■特筆すべき事項及び評価できる事項

(No.数字=令和元年度業務実績に関する報告書における年度計画No.)

- ・学業成績優秀者表彰制度の創設 (No.2)

学業成績優秀者の表彰制度は、学生の教育充実を図り、勉学意欲向上に繋がると期待できる。さらに、この制度を同窓会が実施するシステムにしたことで、同窓会の意義づけ・活性化にも繋がるため高く評価できる。

- ・アドミッション・ポリシーに新たな項目を追加 (No.6)

「対話によって気づきを共有することが、学びを深めるために大切だと認識する人」を追加し、コミュニケーション能力の大切さを明記したことは評価できる。

- ・分野横断型シンポジウムの開催と交流 (No.10)
分野横断型シンポジウムは大学院教育における大学の特徴的なイベントであるが、開催期間を延長し、優秀発表者を専攻ごとに表彰する制度を作るなど、より充実した取組内容としたことは、学生の研究意欲向上に有効である。また、専攻間の学生・教員の交流を活発化させる取組としても、高く評価できる。
- ・共同研究・受託研究、国際学会への学生参画 (No.12)
学生旅費支援事業により、学生が海外の学会発表やワークショップに参加したことは高く評価できる。支援者を決定する採択基準としてTOEICテストの基準点を設ける検討を期待したい。

■今後に期待する事項

下記の事項に関しては、年度計画の着実な実行及び中期計画の達成に向け、さらなる取組を期待したい。

- ・新学生情報システムの構築とディプロマ・ポリシーの可視化 (No.1)
学生がスマートフォンから多くの情報を入手できるようになり、本情報システムは大いに評価でき、今後の学生支援にも活かしてもらいたい。また、同時に学修ポートフォリオを導入したが、各目標の達成度をどのようにして評価して可視化したのかその方法が重要である。ディプロマ・ポリシーにおいて、質の保証と学修カルテの活用方法が重要なので、次年度以降の計画に反映して取り組むことが望ましい。
- ・基礎教育センターカリキュラムポリシーと開講科目の検証 (No.3)
退学率は目標達成できていないため、基礎学力との関係性も考慮し、学生への教育の質保証の観点から、基礎教育科目の単位を取得できない学生に対する支援も検討が必要である。
- ・英語科目の効果的な授業方法を検討 (No.5)
6年間の目標を着実に実行していくために、毎年度の進捗を的確に判断することが必要であり、数年間のデータ積上げによる分析とともに、単年度での問題点の把握や対応が必要と考える。また、TOEICテストをアセスメントとして、レベル分けクラスを実施するなど、TOEICテストの大学の英語教育の位置づけを整理し、大学としての目標点の設定や大学院入学時の指標を作るなど検討を求めたい。

- ・学部生に対する内部進学促進 (No.8)
大学のレベルを向上させていくために、大学院入学希望者を入学定員以上とする目標をたてて進めていき、内部進学者の増加に努めて欲しい。
- ・学部教育から大学院教育への接続を意識したカリキュラム検討 (No.9)
学科再編の動きに合わせて進捗が遅れたものであるが、着実な達成に向け、計画の見通しの明示が望まれる。

(2) 研究に関する目標を達成するための取組

評価委員会 評価	法人の自己評価の項目全体では、9項目全てがB評価とされた。評価委員会としての評価も、全体的には概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	B (概ね順調)
-------------	--	--------------------

評価結果

評価者	全体 項目 数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
法人	9	0	0%	9	100%	0	0%	0	0%
評価委員会	9	0	0%	9	100%	0	0%	0	0%

■特筆すべき事項及び評価できる事項

- ・産官学連携コーディネーターを活用した共同研究 (No.15, 21, 23)
産官学連携コーディネーターを中心に多数の地域企業を訪問し、企業相談や地域課題の把握と解決に取り組むことで、地域企業に貢献し、研究でも地域での連携を強化することは評価できる。
- ・論文投稿の奨励 (No.17)
研究委員会において論文投稿を奨励し、年度計画の目標投稿数を大きく上回る投稿があったことは、評価できる。今後は、経年で投稿数を把握することを期待したい。

(3) 地域貢献に関する目標を達成するための取組

評価委員会 評価	<p>法人の自己評価の項目全体では、3項目がA評価、5項目がB評価とされた。評価委員会としての評価も、全体的には概ね順調な進捗状況にあると評価できる。</p> <p>特に、市民向けに様々な講座を開催したことや、地方公共団体が実施する各種事業へ学生に参加してもらうなど学生の学びを活かし地域との連携が様々な角度から図られていることは高く評価したい。</p>	<p>B</p> <p>(概ね順調)</p>
-------------	---	-------------------------------

評価結果

評価者	全体 項目 数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
法人	8	3	37.5%	5	62.5%	0	0%	0	0%
評価委員会	8	3	37.5%	5	62.5%	0	0%	0	0%

■特筆すべき事項及び評価できる事項

- ・産官学連携コーディネーターを活用した共同研究 (No.15, 21, 23) 【再掲】
産官学連携コーディネーターを中心に多数の地域企業を訪問し、企業相談や地域課題の把握と解決に取り組むことで、地域企業へ貢献し、研究でも地域での連携を強化することは評価できる。
- ・市民向け講座の開催 (No.26, 27)
今までの市民向け公開講座やこども科学教室に加えて、新たに地域の公民館と連携した大人の科学教室の開催など、大学の専門分野の学びを活かした活動を実施している。また、こども科学教室は広報のためにインスタグラムを開設し、昨年度より多い来場者数を呼び込み盛況に開催され、これらの取組は高く評価できる。
- ・地方公共団体が実施する各種事業への学生の参加 (No.28)
地方公共団体が実施する各種事業の情報を収集・周知し、学生の地域貢献を促した。結果、学生が実際に市や群馬県警の事業に参加したことは、地域社会の一員としての役割を果たせており、学生の成長にも繋げることができ評価できる。

■ 今後に期待する事項

下記の事項に関しては、年度計画の着実な実行及び中期計画の達成に向け、さらなる取組を期待したい。

・ 地域貢献学生スタッフへの登録 (No.29)

より多くの学生に、地域貢献学生スタッフに登録し、活動に参加してもらえるように、学生のインセンティブが高まるような広報を期待したい。

(4) 国際交流に関する目標を達成するための取組

評価委員会 評価	法人の自己評価の項目全体では、3項目全てがB評価とされた。評価委員会としての評価も、全体的には概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	B (概ね順調)
-------------	--	--------------------

評価結果

評価者	全体 項目 数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
法人	3	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%
評価委員会	3	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%

(5) 教員の資質向上に関する目標を達成するための取組

評価委員会 評価	法人の自己評価の項目全体では、7項目全てがB評価とされた。評価委員会としての評価も、全体的には概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	B (概ね順調)
-------------	--	--------------------

評価結果

評価者	全体 項目 数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
法人	7	0	0%	7	100%	0	0%	0	0%
評価委員会	7	0	0%	7	100%	0	0%	0	0%

■今後に期待する事項

下記の事項に関しては、年度計画の着実な実行及び中期計画の達成に向け、さらなる取組を期待したい。

- ・人事評価結果の教員への処遇の反映 (No.38)
 様々な意見があることは理解できるが、評価を処遇に反映することは健全な形であり、今後も検討を続けて評価の活用や改善に繋げることを期待したい。
- ・新規採用職員の学外研修への参加 (No.40)
 研修に参加できなかった教員に対しては、今後の研修の対応方針を示すことも検討してもらいたい。

2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組

評価委員会 評価	<p>法人の自己評価の項目全体では、6項目のうち1項目がA評価、4項目がB評価とされた。評価委員会の評価も、全体的には概ね順調な進捗状況にあると評価できる。</p> <p>特に、簡易電子決裁方式の導入により業務運営の改善、効率化を図ったことについては高く評価することができる。</p> <p>しかし、自己評価でC評価とされた項目があり、学科再編に向けて着実な取組が望まれる。</p>	B (概ね順調)
-------------	---	--------------------

評価結果

評価者	全体 項目 数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
法人	6	1	16.7%	4	66.6%	1	16.7%	0	0%
評価委員会	6	1	16.7%	4	66.6%	1	16.7%	0	0%

■特筆すべき事項及び評価できる事項

・教職員向け研修会の開催 (No.41)

教職員が向上心を持って研修に参加し、業務に必要と考えられる資格取得に向け努力している。その結果、様々な資格を取得したことは評価できる。

・簡易電子決裁方式の導入による事務の効率化 (No.42)

既存グループウェアを活用して、簡易電子決裁方式を導入し、ペーパーレス化、決裁の迅速化など事務の効率化を進めることができたことは、コロナ禍における在宅勤務の併用との整合性もよく、効果を発揮できており、高く評価できる。

■今後に期待する事項

下記の事項に関しては、年度計画の着実な実行及び中期計画の達成に向け、さらなる取組を期待したい。

・学科再編の検討 (No.45, 46)

学科再編に向けて大学として組織を立上げ検討しているところではあるが、計画を着実に推進し、学科再編自体が最適となることを期待したい。また、遅れてしまっている人員計画の策定については、今後の計画策定の予定について説明を求めたい。

3 財務内容の改善に関する目標を達成するための取組

評価委員会 評価	法人の自己評価の項目全体では、7項目全てがB評価とされた。評価委員会としての評価も、全体的には概ね順調な進捗状況にあると評価できる。 また、法人として、自立的な大学運営に必要な財源の確保について、積極的に取り組んでいると認められる。これを高く評価し、自己評価はB評価であるが、評価委員会としてはA評価とする。	B (概ね順調)
-------------	---	--------------------

評価結果

評価者	全体 項目 数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
法人	7	0	0%	7	100%	0	0%	0	0%
評価委員会	7	1	14.3%	6	85.7%	0	0%	0	0%

■特筆すべき事項及び評価できる事項

- ・自主財源確保に向けた取組 (No.50、51)

共同・受託研究の間接経費が目標額を上回ったことや、新たに「一般財団法人前橋工科大学研究教育振興財団」を設立、前橋市ふるさと納税として前橋工科大学支援メニューを創設したことは、法人として自立的な大学運営に必要な財源確保に積極的に取り組んでいると認められる。この取組を高く評価し、年度計画No.51は法人の自己評価であるB評価からA評価に上方修正するに値する。

4 自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための取組

評価委員会 評価	法人の自己評価の項目全体では、5項目全てがB評価とされた。評価委員会としての評価も、全体的には概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	B (概ね順調)
-------------	--	--------------------

評価結果

評価者	全体 項目 数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
法人	5	0	0%	5	100%	0	0%	0	0%
評価委員会	5	0	0%	5	100%	0	0%	0	0%

■特筆すべき事項及び評価できる事項

- ・大学ホームページ掲載マニュアルの作成 (No.57)

統一的な表現で、地域に開かれた大学として、教育、研究分野、研究実績及び地域貢献に関する情報が、大学内外の人にも分かりやすく伝わるように、学科情報を含めて発信できている。

5 その他業務運営に関する目標を達成するための取組

<p>評価委員会 評価</p>	<p>法人の自己評価の項目全体では、26項目のうち2項目がA評価、22項目がB評価とされた。評価委員会の評価も、全体的には概ね順調な進捗状況にあると評価できる。</p> <p>特に、オープンキャンパスや高校教員向けの説明会で学生の獲得に向けて魅力的な取組ができている。</p> <p>また、自己評価でC評価とされた項目があるが、新型コロナウイルス感染症の影響により予定どおり実施できなかったもので、やむを得ないと考える。実施できなかった施策の代替策を講じているものは評価委員会としてはB評価とする。今後も新型コロナウイルス感染症の影響が想定されることから、計画どおりの実施が困難な場合、引き続き計画を達成するための代替策を実施することが望まれる。</p>	<p>B (概ね順調)</p>
---------------------	---	----------------------------

評価結果

評価者	全体 項目 数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
法人	26	2	7.7%	22	84.6%	2	7.7%	0	0%
評価委員会	26	2	7.7%	24	92.3%	0	16.7%	0	0%

■特筆すべき事項及び評価できる事項

- ・オープンキャンパス、高校教員向け説明会の開催 (No.71, 72)
オープンキャンパスや高校教員向け説明会において、毎年開催するだけでなく、より良いものになる工夫を取り入れ、参加者の満足度を高めるよう努力し、参加者数や参加校の増へ繋げていることは新たな学生獲得に向け高く評価できる。さらなる取組として、参加者に対してアンケートを行い、新たな取組への反応などから今後の改善に繋げ、より充実した学生獲得の場として欲しい。
- ・ハラスメント防止に係るサポート体制の構築 (No.84)
学生に向け、ハラスメント相談員をアドレス付きで案内していることは、学生の相談しやすさにも繋がり、ハラスメント防止への取組として評価できる。

■今後に期待する事項

下記の事項に関しては、年度計画の着実な実行及び中期計画の達成に向け、さらなる取組を期待したい。

- ・就職活動に関する学内セミナーや合同企業説明会の開催 (No.59, 60, 64)
就職率の高さは高く評価でき、特に大学院の実績は高い。今回、新型コロナウイルス感染症の影響により計画通りの取組を行えなかったが、施策の代替案を実施できており、年度計画No.59、64 については、法人の自己評価であるC評価からB評価に上方修正するに値する。今後も新型コロナウイルス感染症の影響が続くことが想定されるため、この状況に対応できる就職支援システムの構築を期待したい。また、セミナーの開催やシステムの構築にとどめることなく、それらを活用する学生を増やす支援の検討も求めたい。
- ・新入生オリエンテーションの実施 (No.68)
新型コロナウイルス感染症の影響により今後開催が難しいと思うが、新入生が今後の大学生活を送るうえで重要な取組であると考えことから、新型コロナウイルス感染症の予防を考慮したうえで、充実したオリエンテーションとなるよう検討して欲しい。
- ・大学施設のバリアフリー化 (No.75)
全ての学生が安全に学生生活を送れるように、施設のバリアフリー化は計画的に施設整備を進めてほしい。

用語解説

※1：ディプロマ・ポリシー

学位授与に関する基本的な考え方について、各大学等が、その独自性並びに特色を踏まえ、まとめたもの。この方針において、卒業（修了）生に身に付けさせるべき能力に関する大学の考えを示すことにより、受験者が大学を選択する際や、企業等が卒業（修了）生を採用する際の参考となる学位授与方針のこと。

※2：アドミッション・ポリシー

各大学・学部などが入学志願者や社会に対し、その教育理念や特色などを踏まえ、教育活動の特徴や求める学生像、入学者の選抜方法などの方針をまとめたもの。入学者選抜や入試問題の出題内容にはこの方針が反映されることとなっている。

※3：ポートフォリオ

一般には、評価対象の活動及びその活動や業績に対する自己省察などの記述を一定の期間にわたり収集・蓄積した記録で業績を裏付けるもの。記録をとり、評価をすることにより改善、情報共有などに活用される。高等教育における活用の具体的な例として、学生が自身の学修過程や各種の学修成果を収集・記録するための学修ポートフォリオなどがあげられる。

※4：カリキュラム・ポリシー

教育課程の編成及び実施方法に関する基本的な考え方をまとめたもの。この方針の策定に当たっては、教育課程の体系化、単位の実質化、教育方法の改善、成績評価の厳格化等について留意することが必要である。

前橋市公立大学法人評価委員会 委員名簿

(五十音順、敬称略)

	氏名	職業、役職等	備考
1	いとう りょうこ 伊藤 亮子	公認会計士	
2	かじ てつや 梶 徹也	旭化成株式会社代表取締役社長 前橋商工会議所議員	
3	かわすみ たけお 川住 岳央	弁護士 前橋青年会議所理事	
4	ごとう さゆり 後藤 さゆり	共愛学園前橋国際大学副学長	副委員長
5	たかやま としひろ 高山 利弘	群馬大学社会情報学部学部長	
6	はないずみ おさむ 花泉 修	群馬大学大学院理工学府教授	委員長

任期：令和2年4月1日から令和4年3月31日まで